

編集後記

会報 19 号をホームページに掲載いたしました。今回は、「農学関連研究開発独法における総合研究の現状と課題」を特集いたしました。皆様ぜひお読みください。

ところで先週の土曜日、荒玉水道道路を砧の浄水場から、青梅街道の高円寺陸橋まで、およそ 10km を歩きました。これまで都内の川筋を中心に歩いてきて、地図を見るたびに、一直線に砧から東北に延びる荒玉水道道路とは一体何か知りたいと思っていましたが、やっと念願が叶って歩くことができました。インターネットで調べると、多摩川の水を荒川方面に輸送する水道管が埋まっている道路で、青梅街道までは一直線の道路ですが、その先は既存の道路下に水道管が埋められているとか。水道道路では水道管を痛めないために 4 トン車の通行が制限されていて表示がありますので、道に迷う恐れはありません。水は荒川までは行っておらず、野方と大谷口の給水塔から周辺に配水されているとのことです。地図上では平坦な道のようにみえますが、歩いてみるとかなり異なることが分かりました。砧の浄水場から、まず野川（昔の多摩川）を横断し、国分寺崖線の坂を上って武蔵野台地に上り、まもなく仙川の谷を横切りました。それからしばらく歩き、烏山川（現在は緑道となっている目黒川の支流）の谷を越え、北沢川（これも緑道となっている目黒川の支流）の谷を越えました。甲州街道は台地上にあります。それに続く台地上の玉川上水の緑道を越えると、神田川の谷になります。その後は、善福寺川を三度越えました（蛇行しているため三度越えました）。ちょうど荒玉水道道路は都内の川筋と直角に交わるため、それらの谷が明瞭に分かりました。つまり川に向かって坂を下り、川を越えてから坂を上るということを何度か繰り返すということです。

現在はデジタルの地図ができており、標高ごとに色分けすることにより、谷筋がよく分かりますが、そのような地図を見ることをしなくても、歩いて見れば（あるいは車で通ると）そのことがよく分かります。つまり現場に行ってみなければ、本当の姿は分からないということを改めて実感しました。我々の周りにも、同じことがあります。（文責 會田勝美）